

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	西紋こども発達支援センター（放課後等デイサービス）		
○保護者評価実施期間	令和6年10月9日		～ 令和6年12月13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	51	(回答者数) 45
○従業者評価実施期間	令和6年10月9日		～ 令和6年12月13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月1日		

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・専門職（言語聴覚士・作業療法士・保育士・公認心理師・社会福祉士・精神保健福祉士等）を配置しており、専門的な支援ができる。	・内部研修、外部研修の機会を積極的に設けて、日々、研究などが進んでいる支援方法やアセスメントに対応できるようにしている。また、実習の機会なども設けて、職員が他の機関で学んだことを取り入れている。 ・道立旭川子ども総合療育センターの地域療育支援等も活用することで、専門性の向上や欠けている専門職を担ってもらっている。	・現在行っている研修等は継続しつつ、新たなアセスメントや支援方法など、最新の情報を療育に取り入れていく。また、職場内での研修も充実させて、新たな職員の成長につながるよう整備していく。
2	・利用児1名に対し、必ず職員が1人以上担当することで、療育や保護者等からの相談に対応できるようにしている。	・利用児童の状況によって、療育形態やグループメンバーなどを選定し、より効果的な療育につながるよう配慮している。また、専門的な支援が必要な場合は、担当職種も検討している。	・利用児童が増加傾向にあり、新たな職員の確保を行い、現在の療育を継続して行えるよう取り組んでいく必要がある。
3	・関係機関(学校等)と連携をはかり、共通した支援を行えるよう対応している。	・特別な支援（旭川子ども総合療育センターなど）があった際は、参集していただけるように関係機関に依頼し、担当者会議等に発展できるよう努めている。参集できなかった関係機関には、記録をまとめたものを送付している。また、見学等の希望があった際は、すぐに受け入れている。	・今後も現状の取り組みを継続して行っていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・職員数については、運営上の基準は満たしているが、利用児童の増加や地域の小学校や就学前施設等からの相談なども増えている。	・支援を必要としている児童が増加していることと、療育以外の業務も受けることで、幅広く支援の手が届くように対応しているため。	・療育に支障をきたさない範囲で、支援を必要としている児童になるべく対応できるように職員体制の見直しや、取り組める体制づくりを検討している。
2	・利用児童増加に伴い、放課後等デイサービスの利用回数が少なくなっている。	・支援の手が薄い就学前の児童への支援を優先せざるを得ないと考えている。	・利用回数は少なくなるが、相談等は積極的に受け入れている。学校での困りごとについては、療育とは別日で検査等のアセスメントを行い、支援の方向性などを検討し、学校と共有している。
3	・小学生までの利用となっている。	・支援の手が薄い就学前の児童への支援を優先せざるを得ないと考えている。	・中学校進学時に、中学校への引継ぎを行っている。また、小学校5年生以上になると、中学校の見学を企画し、進学先検討の参考にしてもらっている。